

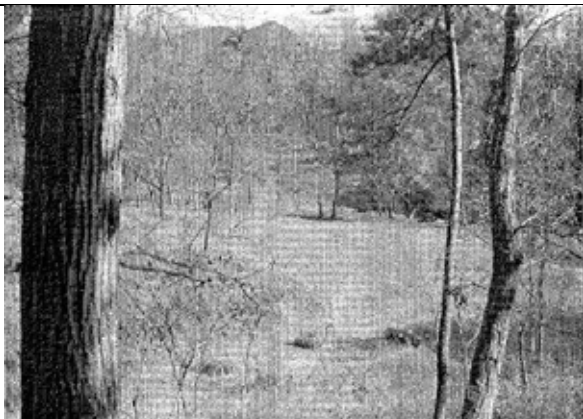
里地里山保全・再生の特徴的取組 個票 A (対象地域の概況)

NO.67		赤目の里山	生物地理区分		アカマツ林	
			地域区分		都市周辺	
所在地	都道府県	三重県	地形条件	1.山地	2.山麓部	3.丘陵・台地
	市町村	名張市		4.低地	5.その他	
	集落名称等	南西丘陵地	環境要素	1.二次林	2.草地	3.水田
		4.畑		5.小川・水路	6.ため池	
				7.池沼・湿地	8.社寺林	9.人工林
				10.その他		

環境要素 (対象とする地域に含まれる環境要素)

: 面積割合が最大のもの : それ以外の環境要素

自然環境・景観保全、国土保全関連の法指定状況	自然環境、景観、文化等の観点からの選定・評価
国定公園、保安林	
特徴的な動植物や生息環境	対象地の景観の現状
チダケサシ、アカイトトンボ、ハッチョウトンボ、ミズオオバコ	



撮影時期：2006年3月
写真の説明：トムソーヤの広場



撮影時期：2008年夏
写真の説明：トンボ池の観察 カワバタモロコ飼育

NO.67		赤目の里山		取組主体	1.地域コミュニティ(集落・組合等)
所在地	都道府県	三重県			2.団体・企業・学校等
	市町村	名張市			3.行政による支援施策の活用
	集落名称等	南西丘陵地			4.多様な主体が参加・連携する組織体
				5.その他	

取組主体	主な主体の名称		特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会	
	その他の主体の名称			
目的 :主 :その他	1.農林業を通じた里山や草地の利用(管理)の維持・活性化(伝統的なものも含む)			
	対象・取組内容	里地里山の保全は従来からある里道(りどう)の整備確保が重要・急務と考え、延べ10km以上の里道を年間数回草刈を行い通行可能にしている。		
	支援措置			
	2.バイオマスなど新たな資源としての利用			
	対象となる資源			
	利活用方法等	ミニペレタイザーとペレットストーブを作った小規模、分散自立型の木質バイオマスネットワークを提言。小型で安価なペレット製造機をメーカーとともに開発し、「燃料の地産地消」を目指して利用拡大に取り組んでいる。		
	3.環境教育や自然体験、エコツーリズムの場としての利用			
	自然観察会	*	里地里山モニタリング1000の調査地日常的に観察会を行っている。	
	環境教育・学習活動	*	10年以上前から赤目小学校との里山自然体験授業(年に4回の里山訪問)を行っている。	
	里地里山体験・環境保全	*	週末会員を中心に作業を行い、国際的ワークキャンプを実施。	
	農林業体験活動	*	キノコ炭焼き、ニホンミツバチの飼育など。	
	エコツアー	*	有限会社エコリゾートと連携してエコツアーを実施。	
	その他	*	カワバタモロコの飼育、上記各種の研修を実施。	
	4.野生動植物やその生息地の保全・管理			
	取組内容	人工池の3年に1度の浚渫作業。観察道トレイルの整備		
5.地域の良好な景観の保全・修復				
取組内容	伐採更新後の整備された里山の景観を大切にしている。			
6.里地里山の伝統的な生活文化の知恵や技術の継承				
対象	生活行事			
	資源利用技術	*	紙すきの技術の保全	
	その他	*	ニホンミツバチの飼育	
取組内容				
7.その他				
取組内容	絶滅危惧種の飼育(カワバタモロコ)			
連携・協働による取組内容・役割分担等		NPO : 行政 助成金事業の応募採決で事業にインセンティブ : 住民 身近な自然体験の場に参加。研修希望で参加、ニーズを実現 : 企業 助成金事業の応募で採決。委託事業展開		
取組の特徴や強調したい点		人々の生活の基盤に根ざした利活用の結果としての環境や景観の保全があるという考えに基づいて活動。萌芽更新の促進を絶対的な課題として位置付け、里山の景観維持に努めている。その結果としての木質バイオマスエネルギー利用を提言。自分達の目標実現のために日常的に取り組む継続的で地道な活動を、アンテナを高くして取り組むことが重要と考えて活動を続けてきた成果として、行政や企業、NPOからの研修参加が増えている。		

取組の概要	里山保全グループにより小規模分散型木質バイオマス利用を推進	課題グループ 農林業 野生生物 手法
事例の特性	製品の需要創出、市場づくり	
取組の中で他の地域の参考となる点	里地里山保全のため里道での草刈りや自然観察会などを行っている活動団体が、ミニペレタイザーとペレットストーブを作った小規模、分散自立型の木質バイオマスネットワークを提言し、取組を進めている。	